

# カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	2019.2.19
主管学校名	筑波大学附属駒場中学校・高等学校
PTA会長名	中島 隆博

実施概要	主管校	筑波大学附属駒場中学校・高等学校
	交流校	筑波大学附属小学校・中学校・高等学校・大塚特別支援学校・視覚特別支援学校・聴覚特別支援学校・桐が丘特別支援学校・坂戸高等学校
	実施活動名	児童・生徒の交流会及びインクルーシブ・ワークショップ
	実施日時	ワークショップ 8月6日、2月17日 交流会 8月26日、11月2-4日、1月26日
	実施場所	筑波大学附属駒場中学校・高等学校、津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス
	実施目的	筑波大学附属学校間における児童・生徒の交流と共生社会の真の理解を深める機会とする。
	実施内容	筑波大学附属学校での児童・生徒の交流、および情報アクセシビリティに関するワークショップ
	実施方法	①誰にとっても利用しやすく使いやすい社会の実現のための情報アクセシビリティを学ぶワークショップを年2回実施。 ②筑波大学附属学校の児童・生徒の交流会を年2回実施及び文化祭での謎解きゲーム企画実施。
参加人数	①8/6は20名、2/17は13名、②8/26は24名、11月は40名、1/27は34名	

報告事項	内容	<p>①津田塾大学インクルーシブ教育支援室の柴田邦臣先生、松崎良美先生を講師としてお招きし、誰にとってもアクセシブル（利用しやすく使いやすい）な社会の実現に向けて、主に点字や手話を通して、情報アクセシビリティについて学ぶワークショップを2回実施した。</p> <p>8月6日はチームで各メンバーが視覚（音声なし）・聴覚（目隠し音声のみ）・触覚のみによる情報を持ち寄って算数や理科の問題を解答するというワークショップを行った。キャップハンディを体験しながら、集めた情報をシェアし答えを導き出すプロセスは、聴覚・視覚・触覚から得られる情報の特性などを理解するとともに、仲間と一緒に解く楽しさを感じられるワークショップであった。2月17日は、点字や手話を使って、相手の伝えたい内容を受け止めること・理解することを目的に、チームで「手話の動画」もしくは「点字」の文章を読み、おおまかな内容を把握するワークショップを行った。手話者と点字ユーザー（盲者）からは、手話・点字を読み取る際のポイントや難しさなど具体的に学んだ。</p> <p>②年2回の交流会では、普通附属と特別支援学校の児童生徒が集い、自己紹介などのアイスブレイク、箱の中身は何だろうゲーム・点字や手話を使った伝言ゲーム、ブンブン駒づくりや白玉団子づくりなどをして児童・生徒間交流を行った。さらに文化祭では、インクルーシブ・ワークショップに参加した生徒を中心に、点字の法則性や手話の表現力の豊かさや視野狭窄（視覚障害）の状況などの理解につながる謎解きゲームを製作し、来校した多くの方に参加してもらった。年齢・性別・特性などにかかわらず多様な人が楽しめる企画であった。</p>
	結果	<p>①手話や点字を学びつつ、それぞれのキャップハンディを体験しながら、仲間と一緒に問題を解く体験型交流により、情報保証や共同作業の重要性を感じる事ができた。また、チーム対抗ゲームとして行うことで、ゲーム感覚で情報保証やサポートの実際を楽しみながら学ぶ機会となった。手話者・点字ユーザーからのアドバイスもあり、交流をしながら、情報を伝える際に意識したほうが良い点などをより具体的に理解することができた。自分たちで企画運営する交流会の開催時に役立つ視点が得られた。</p> <p>②交流会は特別支援学校の生徒も含む複数の学校の生徒が運営スタッフとして企画・準備・運営をしており、視覚や聴覚、知的、肢体に不自由のある生徒が集まった際にどのようなサポートが必要なのか、子どもたちの目線で準備・実施・反省会を行いながら実施した。参加した子どもたちからは「楽しかった」「次も楽しみにしている」等多くの声があり、回を重ねるごとに仲間としての絆が強くなっている。</p>
	所感	<p>交流会の開催に加えて、点字や手話を学ぶ機会を設け、交流会をよりよく企画運営できるように試みた。交流会は生徒が中心に企画運営を行い、誰にとっても楽しめる内容を吟味したうえで実践し、終了後には反省会を行い、次回に引き継いでいくシステムも生まれた。保護者の方も他校児童生徒との交流の機会に喜んでおり、参加する子どもたちも楽しみにしてくれる企画となっている。今後も、これらの活動を通して、寄り添い・ともに生きていく社会の基盤づくりをしていきたい。</p>

添付書類

## カンガルーシップ活動

## 共生プロジェクト参加感想

提出日	2019.2.19
学校名	筑波大学附属駒場中学校・高等学校
学年	小学生～高校生

## 【ワークショップに参加した生徒の声】

- ・実際にろう者からアドバイスをいただいて、より深く理解ができた。
- ・擬似体験を通して、障害を理解してくれようとしていて、うれしかった。
- ・問題は難しかったけど、仲間と一緒に解く楽しさがあって、点字や手話にも関心が持てた。
- ・楽しく、時には頭を抱えながら、手話や点字の問題を解くことができよかったです。
- ・点字や手話は漢字などがないから、パッと見てほしいの内容を見るのが難しいことがわかった。
- ・重要どころだけを訳すという作業ができないので、難しかった。
- ・手話と点字の言語特性について理解できた。これから手話や点字を使う際の参考にしたい。
- ・このようなワークショップに初めて参加したが、すごく楽しかったし、点字や手話に対する興味が深まりました。
- ・手話の読解がとても面白かった。とても興味深かったので、また参加したいと思う。



↑ワークショップの様子 ↓冬の交流会での様子

## 【交流会での児童生徒の声】

- ・今回は本当にありがとうございました。初めてこの会のことを知りましたが、本当に素晴らしい会だと思いました。また参加させてもらえると嬉しいです。
- ・ゲームがみんなでできるように工夫されていてよかった。
- ・障害を持っている人に何かをしてあげるといってではなく、一緒に楽しむという考えのもと、仲良くなっていくことでより理解し、実践できるようになった。
- ・交流をする中で手話や点字についてももっと知りたいという興味が持てた。交流会をきっかけに日常でも新たなつながりを持つことができた。
- ・障害を持つ人とはサポートする一されるの関係であると思っていたが、意識はしていなくても見下していたのかもしれない。交流をきっかけに、彼らと付き合いときに躍起になることはないんだ、自然体でいいんだということを学ぶことができました。
- ・障害を持った同世代の友達との交流が増え、新しい知識を身につけることができました。



## 【文化祭での手話や点字を用いた謎解きゲームに参加した児童生徒の声】

- ・視覚障害の体験がとても難しかったです。自分以外の障害の擬似体験ができて実際に視覚障害を持っている方は本当に大変だと思いました。
- ・LINE など新しい単語の手話も知れてよかったです。面白かったです。
- ・とても面白かったです。障害の大変だがわかりました。
- ・点字で苦戦しました。とても楽しかったです。
- ・ヒントをもらうまで点字が全くわかりませんでした。目の不自由な人や耳の不自由な人を助けられるようになりたいです。
- ・人間の感覚が制限されるとかなり不便だとわかった。
- ・点字が触ってだと全然読めなくてビックリしました。
- ・いろんなチャプターがあり、楽しく体験できました。普段使わない感覚をたくさん使い、新鮮でした。
- ・点字が読み取れた時の嬉しさが印象的だった。
- ・実際に体験することによって大変さがわかった。



## カンガルーシップ活動

## 共生プロジェクト参加感想

提出日 2019.2.19

学校名 筑波大学附属駒場中学校・高等学校

## 【ワークショップでの保護者の声】

・情報伝達手段として、点字や手話を使う難しさと面白さを感じた。科学的、医学的用語の伝達が点字や手話でどのようにされているのか気になった。これからどう障害者と関わっていくのか、今まで使ってきた手話は何だったのかを考えさせられた。

・子どもが開ロー一番「楽しかった!」と言っていました。課題が難しくても頭を使って、周りの人と協働で作業するのが楽しく、また刺激的だったようです。ありがとうございました。

## 【夏の交流会での保護者の声】

・忙しいのに、色々企画を考えて頂きありがとうございます。いつもながら子供はとても楽しかったようです。本当に色々ありがとうございました。

・改めて、2回交流会の会を開催してくださりありがとうございます。子どももとても楽しかったと大変喜んでいました。この会を開催するのにあたり、色々準備等大変だったことと思います。本当にありがとうございました。また、開催していただけると聞き、今から子どももとても楽しみにしております。

・本人も参加してよかったと言っています。次回も参加したいと思っています。よろしくお願いします。

・本人は会を大いに楽しませていただき、作ったブンブン駒を手にしながら満面の笑みでした。夏休み最後に良い思い出ができました。こんなに素晴らしい会を企画していただき、心からお礼申し上げます。会を企画・運営してくださっている皆様、ありがとうございました。次回も参加させていただきます。



↑夏の交流会の様子

↓文化祭での様子

## 【冬の交流会での保護者の声】

・普段することのない体験ができる貴重な時間でした。

・筑波附属繋がりを生かして、年齢や障害のあるなしを超えて共に時間を過ごせて感謝しています。

・性別や年齢、環境の枠を超えて、イベントを通して自然に互いを思いやれることができ、よかったです。

・学校生活だけでは出会えない皆さんと楽しく過ごせ、楽しく参加しています。

・毎回本当に楽しみに参加させていただいています。帰宅後も色々と話してくれるので言葉がたくさん出ます。

・子どもたち同士が互いに相手を思いやり、自然と行動する姿が各所に見られ、感心しました。

・白玉づくりやゲームなど、どれをとっても楽しかったです。



## 【文化祭での手話や点字を用いた謎解きゲームでの保護者の声】

・障害体験を手軽にできる・まとめたところが素晴らしい。難易度もいい感じだった。

・学べる環境として最高だと思いました。皆さんも楽しそう。

・面白い企画でした。いろんなことを考えて、楽しみながら仲間づくりしていただけで嬉しかったです。

・点字がとても難しかったです。目の不自由さをとても実感できました。

